

令和5年5月19日(金)

独立行政法人 労働政策研究・研修機構 (理事長 藤村 博之)
調査部長 新井 栄三
調査部リサーチフェロー 郡司 正人
調査部調査員 岩田 敏英
(電話) 03-5903-6286 (URL) <https://www.jil.go.jp/>

副業をしている人は6.0%、副業をする理由(複数回答)は「収入を増やしたいから」が54.5%、「1つの仕事だけでは収入が少なく、生活自体ができないから」が38.2%

「副業者の就労に関する調査」

<調査結果のポイント>

<副業をしている人は6.0%、男性よりも女性で高い割合>

- ▶ 仕事をしている人のうち、副業をしている人の割合は6.0%で、男性(5.1%)よりも女性(7.4%)で高い割合となっている。女性は年齢が高いほど副業をしている人の割合が高く、「18~29才」が5.9%に対して、「60~64才」は8.3% (P.2 図表1-1、図表1-2)。

<副業の6割が「非正社員」、3割強が「非雇用者」>

- ▶ 副業をしている人について、本業の就業形態を大括りで見ると、「非正社員」が41.0%でもっとも割合が高く、「正社員」が38.1%、「非雇用者」が20.9%となっている。副業の就業形態をみると、「非正社員」が60.1%でもっとも割合が高く、「非雇用者」が33.1%、「正社員」が6.8%となっている (P.3 図表2-2、P.4 図表2-3 ※詳細な就業形態での結果は図表を参照)。
- ▶ 本業の就業形態と副業の就業形態の組み合わせタイプ別にそれぞれの割合をみてみると、「本業・非正社員+副業・非正社員」が32.9%でもっとも割合が高く、本業、副業ともに非正社員をしている人がもっとも多い。次いで「本業・正社員+副業・非正社員」(19.5%)、「本業・非雇用者+副業・非雇用者」(12.9%)、「本業・正社員+副業・非雇用者」(12.2%)、「本業・非正社員+副業・非雇用者」(8.0%)などの順 (P.5 図表2-5)。

<副業する理由は「1つの仕事だけでは収入が少なく、生活自体ができないから」が4割弱>

- ▶ 副業する理由(複数回答)は、「収入を増やしたいから」が54.5%でもっとも割合が高く、次いで「1つの仕事だけでは収入が少なく、生活自体ができないから」(38.2%)、「自分が活躍できる場を広げたいから」(18.7%)などとなっている。これを本業の就業形態別にみると、「1つの仕事だけでは収入が少なく、生活自体ができないから」の割合は「非正社員」が43.9%、「非雇用者」が38.9%、「正社員」が31.6% (P.8 図表2-11)。

<3人に1人は副業する理由に新型コロナが影響。本業が「宿泊業、飲食サービス業」「生活関連サービス業、娯楽業」では4割超>

- ▶ 副業をしている理由は新型コロナが「影響している」とする人の割合は34.7%だった。本業の業種別にみると、「宿泊業、飲食サービス業」(45.0%)がもっとも高く、以下「生活関連サービス業、娯楽業」(40.8%)、「建設業」(39.3%)、「製造業」(39.2%)、「運輸業、郵便業」(38.0%)、「その他のサービス業」(37.1%)などの順となっている (P.13 図表2-20、図表2-21)。

I 調査の概要

1. 調査の趣旨・目的

これまで、厚生労働省では、平成30年1月、副業・兼業（以下「副業」という。）の促進の方向性や、労働時間や労働者の健康確保等の留意事項をまとめた「副業・兼業の促進に関するガイドライン」を策定し、さらに、令和2年9月には、同ガイドラインを改定して、副業・兼業に関する労働時間管理や健康確保など、ルールを明確にする取組を行ってきた。

こういった取組から一定の時間が経過したことから、副業を行う労働者の割合や、労働者が実施する副業の形態、業種、副業を行う理由等について把握し、副業者の就労状況を確認するためのアンケート調査を実施した。

なお、本調査は厚生労働省労働条件政策課の要請を受けて行った。

2. 調査名

「副業者の就労に関する調査」

3. 調査方法

調査会社の登録モニターを対象としたインターネット調査

4. 調査対象

調査会社が保有する登録調査モニターのうち、モニター登録上の職種が「無職」の者を除く18～64歳の男女。

5. 調査実施期間

令和4（2022）年10月3日～10月13日

6. 回収状況

「4. 調査対象」の条件に合致する159万8,770人に調査回答依頼のメールを送信し、調査で「仕事をしている」と回答した人について、18万8,980人の有効回答を得た。このうち、調査で「仕事は2つ以上（副業をしている）」と回答した1万1,358人を「副業者」として集計している。また、調査で「仕事は1つだけ」と回答した「本業のみの者」についても、参考数値として2,182人の回答を集計している（「仕事は1つだけ」と回答した人は、先着の2,000人強を集計対象とした）。

7. 回答者の属性

17ページに掲載

Ⅱ 調査結果の概要

《1》副業者の割合

調査では「仕事をしている」と回答した人に対し、仕事の数を尋ねている。それによれば、「本業のみの者」（仕事は1つだけ）は94.0%となっており、ほとんどの人が副業を持っていない。仕事を持っている人のうち、「副業者」（仕事は2つ以上（副業をしている））の割合は6.0%だった。

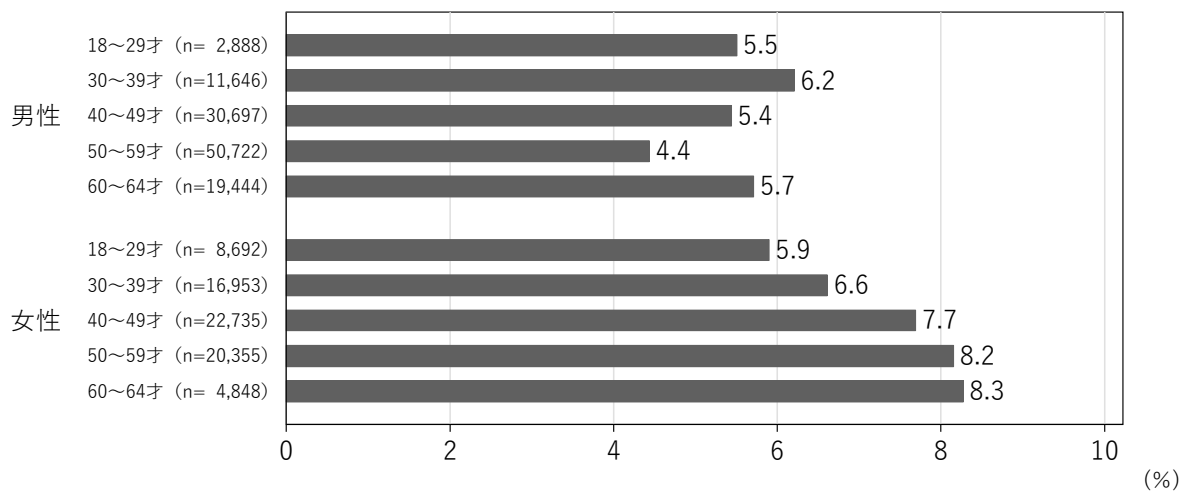
副業者の割合を男女別にみると、男性が5.1%に対して女性が7.4%で、女性の方が高い割合となっている。年齢による違いはそれほどみられない（図表1-1）。

副業者の割合を男女別かつ年齢別にみると、男性は「30～39才」（6.2%）がもっとも高く、「50～59才」（4.4%）がもっとも低い。一方で女性は、年齢が高いほど副業をしている割合が高く、男女で異なる傾向がみられる（図表1-2）。

図表1-1 仕事の数（男女別、年齢別、単位：%）

	n	仕事は1つだけ	仕事は2つ以上 （副業をしている）
計	188,980	94.0	6.0
男性	115,397	94.9	5.1
女性	73,583	92.6	7.4
18～29才	11,580	94.2	5.8
30～39才	28,599	93.6	6.4
40～49才	53,432	93.6	6.4
50～59才	71,077	94.5	5.5
60～64才	24,292	93.8	6.2

図表1-2 副業者の割合（男女および年齢別）



《2》副業者の状況

1. 副業の数

副業をしている人に対して、副業の数を尋ねたところ、「1つ」が78.0%で大半を占めた。「2つ」が17.6%、「3つ」が3.3%などと続く（図表2-1）。

以下で副業者の状況をみるにあたっては、特に断りのない限り、もっとも収入の多い副業を「主な副業」として、「主な副業」のみに着目した結果を示す。

図表2-1 副業の数(単位:%)

	1つ	2つ	3つ	4つ	5つ	6つ以上	
n	11,358	78.0	17.6	3.3	0.6	0.4	0.1

2. 就業形態

副業者について、本業（自らが主たる仕事と考える仕事。以下同じ）の就業形態を大括りにみると、「非正社員」が41.0%でもっとも高い（このうち、「パート・アルバイト」が28.4%、「契約・嘱託社員」が8.0%、「派遣社員」が4.3%、「請負会社の社員」が0.2%、「期間工・季節工・日雇」が0.1%）。次いで「正社員」が38.1%、「非雇用者」が20.9%となっている（「非雇用者」のうち、「自由業・フリーランス（独立）・個人請負」が9.0%、「自営業主」が8.6%、「会社などの役員」が2.1%、「家族従業員・家業の手伝い」が0.6%、「その他」が0.5%）（図表2-2）。

図表2-2 本業の就業形態(単位:%)

n	正社員	非正社員					非雇用者				
		契約・嘱託社員	パート・アルバイト	派遣社員	請負会社の社員	期間工・季節工・日雇	会社などの役員	自営業主	（自由業・フリーランス）・個人請負	伝家族従業員・家業の手	その他
11,358	38.1	8.0	28.4	4.3	0.2	0.1	2.1	8.6	9.0	0.6	0.5
		41.0					20.9				

主な副業（もっとも収入の多い副業。以下同じ）の就業形態を大括りにみると、「非正社員」が60.1%でもっとも高い（このうち、「パート・アルバイト」が46.9%、「派遣社員」が5.9%、「契約・嘱託社員」が5.7%、「期間工・季節工・日雇」が1.1%、「請負会社の社員」が0.5%）。次いで「非雇用者」が33.1%（このうち、「自由業・フリーランス（独立）・個人請負」が21.2%、「自営業主」が7.4%、「会社などの役員」が1.8%、「その他」が1.4%、「家族従業員・家業の手伝い」が1.3%）で、正社員は6.8%となっている（図表2-3）。

図表 2-3 主な副業の就業形態(単位:%)

n	正社員	非正社員					非雇用者				
		契約・嘱託社員	パート・アルバイト	派遣社員	請負会社の社員	期間工・季節工・日雇	会社などの役員	自営業主	(独立)・フリーランス・個人請負	伝い 家族従業員・家業の手	その他
11,358	6.8	5.7	46.9	5.9	0.5	1.1	1.8	7.4	21.2	1.3	1.4
		60.1					33.1				

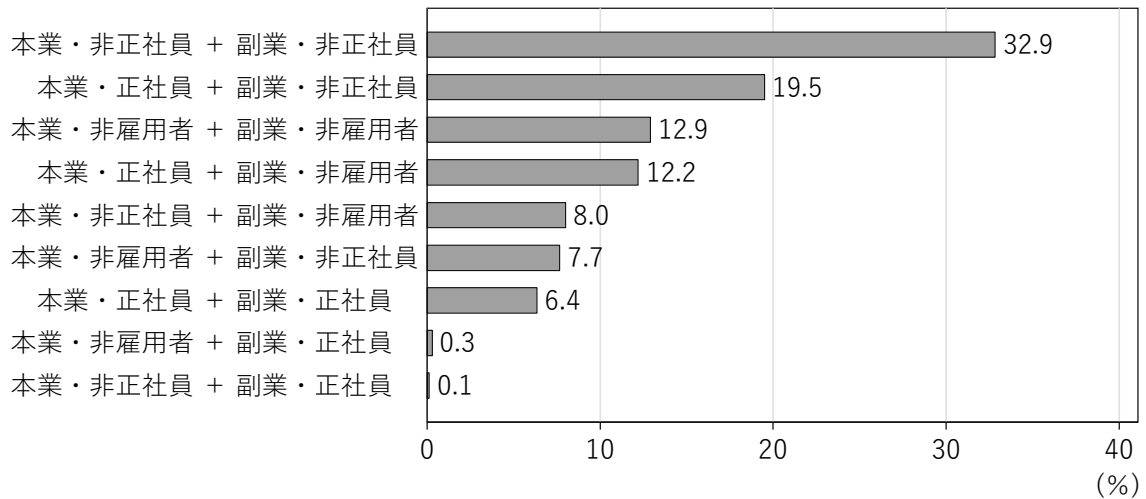
主な副業の就業形態を本業の就業形態別にみると、本業が正社員の場合、副業は「パート・アルバイト」の割合が 39.6%でもっとも高く、次いで「自由業・フリーランス (独立)・個人請負」が 21.7%となっている。本業が「パート・アルバイト」の場合、副業も同じ「パート・アルバイト」である人が 73.8%と 7 割強を占めている。本業が「自由業・フリーランス (独立)・個人請負」では、副業も「自由業・フリーランス (独立)・個人請負」の人が 57.0%と半数を超えている (図表 2-4)。

図表 2-4 主な副業の就業形態(本業の就業形態別、単位:%)

	n	主な副業の就業形態										
		正社員	契約・嘱託社員	パート・アルバイト	派遣社員	請負会社の社員	期間工・季節工・日雇	会社などの役員	自営業主	(独立)・フリーランス・個人請負	伝い 家族従業員・家業の手	その他
計	11,358	6.8	5.7	46.9	5.9	0.5	1.1	1.8	7.4	21.2	1.3	1.4
本業の就業形態												
正社員	4,327	16.7	5.5	39.6	4.7	0.6	0.8	1.5	6.0	21.7	1.4	1.5
契約・嘱託社員	909	0.4	23.9	44.2	5.6	0.7	1.5	0.8	4.6	16.1	1.5	0.7
パート・アルバイト	3,225	0.2	1.7	73.8	4.4	0.3	1.3	0.2	2.5	12.9	1.4	1.1
派遣社員	494	0.2	2.8	34.2	39.9	0.4	2.2	0.2	3.2	15.4	0.4	1.0
請負会社の社員	18	16.7	0.0	27.8	5.6	0.0	11.1	0.0	11.1	27.8	0.0	0.0
期間工・季節工・日雇	11	0.0	0.0	27.3	9.1	0.0	54.5	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1
会社などの役員	244	3.3	7.4	13.9	1.6	0.4	1.2	35.2	16.0	16.8	1.6	2.5
自営業主	975	1.6	5.1	32.6	3.6	0.3	0.3	1.6	33.7	18.8	1.3	0.9
自由業・フリーランス(独立)・個人請負	1,027	0.8	4.4	24.1	3.5	0.2	0.9	1.9	5.7	57.0	0.5	1.2
家族従業員・家業の手伝い	73	0.0	8.2	52.1	1.4	0.0	1.4	2.7	4.1	17.8	9.6	2.7
その他	55	1.8	3.6	32.7	0.0	0.0	0.0	3.6	7.3	21.8	0.0	29.1

就業形態を「正社員」「非正社員」「非雇用者」の 3 つに区分したうえで、本業の就業形態と副業の就業形態の組み合わせタイプ別の割合をみてみると、「本業・非正社員+副業・非正社員」が 32.9%とトップで、本業、副業ともに非正社員をしている人の割合がもっとも高い。次いで「本業・正社員+副業・非正社員」(19.5%)、「本業・非雇用者+副業・非雇用者」(12.9%)、「本業・正社員+副業・非雇用者」(12.2%)などの順となっている (図表 2-5)。

図表 2-5 本業の就業形態と主な副業の就業形態 (n=11,358)



3. 業種

主な副業の業種は「宿泊業、飲食サービス業」「医療・福祉」の割合が10.5%でもっとも高く、次いで「卸売業・小売業」(10.3%)、「教育・学習支援業」(9.8%)、「その他のサービス業」(9.7%)、「生活関連サービス業、娯楽業」(9.2%)などの順となっている。

本業の業種別にみると、本業が「医療・福祉」「教育・学習支援業」「宿泊業、飲食サービス業」の人は、副業でも同じ業種で働いている人の割合が高い(それぞれ51.6%、50.3%、42.3%)。一方、本業が「金融業・保険業」「電気・ガス・熱供給・水道業」の人は、同じ業種の副業で働いている人の割合が低い(それぞれ13.7%、14.0%) (図表 2-6)。

図表 2-6 主な副業の業種 (単位:%)

	n	主な副業の業種																
		農林漁業・鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売業・小売業	金融業・保険業	不動産業、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育・学習支援業	医療・福祉	複合サービス事業	その他のサービス業	その他
計	11,358	2.7	2.1	4.7	0.7	3.6	7.6	10.3	0.9	2.2	6.2	10.5	9.2	9.8	10.5	1.9	9.7	7.6
農林漁業・鉱業	144	33.3	4.9	2.8	0.0	2.8	2.8	9.0	0.7	1.4	2.1	9.0	4.9	5.6	2.1	4.9	4.2	9.7
建設業	491	5.5	23.6	3.5	1.0	3.5	8.1	9.0	1.2	3.3	3.5	8.1	4.1	5.5	4.1	0.4	8.6	7.1
製造業	1,330	3.3	1.4	21.7	0.8	4.2	9.5	9.5	0.5	1.4	5.0	9.5	8.2	4.8	2.4	1.7	8.2	8.0
電気・ガス・熱供給・水道業	129	7.0	5.4	5.4	14.0	4.7	7.0	10.1	2.3	3.9	3.9	7.0	4.7	10.1	2.3	0.8	6.2	5.4
情報通信業	540	1.1	1.5	1.9	0.4	32.6	5.4	7.2	0.6	2.8	6.5	8.7	8.1	6.9	3.0	1.3	6.9	5.4
運輸業・郵便業	684	1.9	0.6	2.6	1.3	2.8	36.8	9.9	0.4	1.2	2.2	9.8	7.9	2.8	3.5	1.0	7.0	8.2
卸売業・小売業	1,321	2.4	1.1	3.9	0.4	1.6	8.6	32.5	0.6	1.4	2.4	11.1	6.7	5.5	4.4	2.1	7.6	7.6
金融業・保険業	277	1.4	0.7	2.2	0.4	4.0	6.5	11.2	13.7	4.0	2.9	7.6	12.3	7.9	5.4	1.8	10.5	7.6
不動産業、物品賃貸業	303	4.0	3.3	2.3	0.3	3.3	5.6	8.6	2.3	24.1	4.0	7.3	6.6	6.9	3.3	2.0	7.9	8.3
学術研究、専門・技術サービス業	653	1.2	0.9	2.1	0.6	2.1	4.4	6.7	0.9	2.1	36.4	3.1	8.0	10.6	3.1	2.3	8.4	6.9
宿泊業、飲食サービス業	742	1.6	1.2	3.0	0.7	1.9	5.7	9.8	0.3	1.2	2.7	42.3	8.2	3.2	3.8	1.2	6.5	6.7
生活関連サービス業、娯楽業	754	1.5	0.9	1.7	0.8	2.4	4.9	6.5	0.1	1.6	5.2	12.2	36.1	5.2	3.8	2.5	7.7	6.9
教育・学習支援業	1,008	1.4	0.6	1.3	0.5	1.2	2.5	4.8	0.0	0.6	9.1	4.4	5.5	50.3	6.4	1.5	5.0	5.1
医療・福祉	1,584	1.1	0.8	1.6	0.4	0.9	2.6	5.2	0.4	1.0	2.8	7.7	5.4	6.1	51.6	1.1	5.9	5.3
複合サービス事業	189	5.8	2.1	4.2	0.0	2.1	4.2	3.7	2.1	2.6	8.5	6.9	11.1	8.5	4.8	18.0	12.7	2.6
その他のサービス業	852	1.5	0.8	3.2	0.6	1.3	5.9	6.3	0.4	1.2	4.3	8.8	9.5	4.9	2.3	1.9	39.2	7.9
その他	357	5.3	1.4	2.2	0.6	1.1	5.9	5.9	0.8	2.2	6.4	4.5	8.7	8.7	5.0	1.1	8.7	31.4

4. 職種

主な副業の職種は「専門的・技術的職業」の割合が22.3%でもっとも高く、次いで「サービス職業」(18.2%)、「運搬・清掃・梱包等」(13.4%)、「販売」(10.8%)、「事務」(10.1%)などの順となっている。

本業の職種別にみると、本業が「専門的・技術的職業」「運搬・清掃・梱包等」の人は、副業でも同じ業種で働いている人の割合が高い(それぞれ57.8%、54.4%)。本業が「建設・採掘」の人以外では、本業がいずれの職種であっても、副業が「サービス職業」の人の割合が1割を超えている(図表2-7)。

図表 2-7 主な副業の職種(単位:%)

	n	主な副業の職種											
		管理的職業	専門的・技術的職業	事務	販売	サービス職業	保安職業	農林・漁業	生産工程	輸送・機械運転	建設・採掘	運搬・清掃・梱包等	その他
計	11,358	5.4	22.3	10.1	10.8	18.2	1.3	2.2	3.4	2.8	1.3	13.4	8.6
本業の職種													
管理的職業	1,352	30.6	21.4	8.1	6.5	10.5	1.0	2.7	1.3	2.0	1.5	7.5	6.9
専門的・技術的職業	2,745	2.6	57.8	5.9	5.9	10.7	0.7	1.5	1.8	1.3	0.8	5.6	5.4
事務	1,973	2.2	14.1	28.5	11.1	20.8	0.8	1.8	2.3	1.2	0.3	8.7	8.3
販売	1,277	2.0	8.5	6.6	32.4	16.7	2.7	2.3	3.8	3.1	0.8	13.4	7.8
サービス職業	1,406	1.2	6.8	7.5	8.4	47.7	0.8	0.9	3.4	1.7	0.7	11.9	8.8
保安職業	91	5.5	6.6	3.3	5.5	15.4	23.1	2.2	3.3	5.5	1.1	18.7	9.9
農林・漁業	121	2.5	9.9	4.1	5.8	17.4	1.7	28.1	8.3	4.1	3.3	1.7	13.2
生産工程	598	1.3	6.4	4.7	12.4	14.9	1.5	3.3	18.9	3.7	2.2	23.9	6.9
輸送・機械運転	279	2.5	4.7	2.9	6.1	10.4	2.9	2.5	3.2	30.8	1.4	24.7	7.9
建設・採掘	210	3.3	8.6	5.2	9.0	8.6	0.5	7.1	3.3	5.2	24.3	17.1	7.6
運搬・清掃・梱包等	801	1.1	3.4	4.9	8.6	10.4	1.5	2.1	3.4	3.2	0.7	54.4	6.2
その他	505	2.0	11.9	5.9	7.5	17.0	1.6	0.8	2.4	1.6	0.2	10.5	38.6

5. 副業の頻度

主な副業で働く頻度をみると、「週の1~2日程度」の割合が31.4%とトップで、以下「週の半分程度」(18.6%)、「月に数日程度」(16.7%)と続く。そのほか、「週末など本業が休みの日」(13.2%)、「ほぼ毎日」(12.5%)、「季節的など特に人手が必要なときだけ(不定期)」(7.7%)の順となっている。

本業の就業形態別にみると、「正社員」は、「週末など本業が休みの時」(18.5%)の割合が他の就業形態よりも高いのが目立ち、頻度の低さが特徴となっている。一方で「非雇用者」は、「週の半分程度」(23.8%)、「ほぼ毎日」(18.3%)など、他の就業形態よりも頻度が高い(図表2-8)。

図表 2-8 主な副業の頻度（本業の就業形態別、単位：%）

本業の 就業形態	n	ほぼ 毎日	週 の半 分程 度	週 の1 ～2 日程 度	週 末な ど本 業が 休 みの 日	月 に数 日程 度	季 節的 など 特に 人手 が必 要 な とき だけ （不 定期 ）
計	11,358	12.5	18.6	31.4	13.2	16.7	7.7
正社員	4,327	11.3	15.2	30.2	18.5	17.5	7.4
非正社員	4,657	10.6	19.2	34.1	11.3	16.6	8.2
非雇用者	2,374	18.3	23.8	28.4	7.0	15.2	7.2

6. 収入

すべての副業を合わせた1カ月あたりの収入は、「5万円以上10万円未満」が30.0%でもっとも高く、次いで、「10万円以上15万円未満」（13.2%）、「3万円以上4万円未満」（10.5%）、「2万円以上3万円未満」（10.2%）などの順。5万円未満が4割を超えている。

本業の就業形態別にみると、「非正社員」は他の就業形態と比較して5万円未満の割合が高い。「非雇用者」は他の就業形態と比較して10万円以上の割合が高い（図表 2-9）。

図表 2-9 1カ月あたりの副業の収入（本業の就業形態別、単位：%）

本業の 就業形態	n	1 万円 未 満	1 万円 以 上 2 万円 未 満	2 万円 以 上 3 万円 未 満	3 万円 以 上 4 万円 未 満	4 万円 以 上 5 万円 未 満	5 万円 以 上 10 万円 未 満	10 万円 以 上 15 万円 未 満	15 万円 以 上 20 万円 未 満	20 万円 以 上 25 万円 未 満	25 万円 以 上
計	11,358	4.7	8.9	10.2	10.5	6.9	30.0	13.2	4.9	3.9	6.9
正社員	4,327	4.2	7.0	10.1	10.3	6.1	31.5	13.3	5.0	4.3	8.2
非正社員	4,657	5.7	12.1	12.2	12.9	8.8	31.1	10.1	3.2	1.7	2.2
非雇用者	2,374	3.5	6.1	6.3	6.3	4.5	25.1	19.0	7.9	7.7	13.7

本業および主な副業の就業形態別にみると、「本業・非雇用者+副業・非正社員」や「本業・非雇用者+副業・非雇用者」で10万円以上の割合が高い。「本業・非正社員+副業・非雇用者」では5万円未満の割合が高くなっている（図表 2-10）。

図表 2-10 1 カ月あたりの副業の収入(本業および主な副業の就業形態別、単位:%)

本業および主な副業の就業形態	n	1	1	2	3	4	5	10	15	20	25
		万円未満	万円以上 2万円未満	万円以上 3万円未満	万円以上 4万円未満	万円以上 5万円未満	万円以上 10万円未満	万円以上 20万円未満	万円以上 25万円未満	万円以上	
計	11,358	4.7	8.9	10.2	10.5	6.9	30.0	13.2	4.9	3.9	6.9
本業・非正社員+副業・非正社員	3,732	3.7	10.7	12.1	13.3	9.3	33.0	11.0	3.2	1.7	2.0
本業・非雇用者+副業・非正社員	874	1.1	4.6	5.3	5.4	6.2	32.5	21.2	10.2	7.1	6.5
本業・正社員+副業・非正社員	2,217	2.3	6.9	10.6	11.9	8.3	38.1	10.9	4.5	2.5	4.0
本業・非正社員+副業・非雇用者	909	14.0	17.9	12.7	11.4	7.0	23.0	6.3	3.1	1.7	3.0
本業・非雇用者+副業・非雇用者	1,467	5.0	7.1	6.9	6.7	3.5	21.0	17.8	6.6	7.9	17.5
本業・正社員+副業・非雇用者	1,388	7.0	8.6	9.1	8.8	3.2	23.3	14.8	5.5	6.7	12.8
本業・非正社員+副業・正社員	16	0.0	0.0	12.5	0.0	6.3	37.5	12.5	6.3	12.5	12.5
本業・非雇用者+副業・正社員	33	0.0	3.0	6.1	9.1	3.0	9.1	12.1	6.1	15.2	36.4
本業・正社員+副業・正社員	722	4.4	4.6	10.4	8.2	4.6	27.1	17.5	5.8	5.3	12.2

7. 副業する理由

副業する理由を尋ねたところ(複数回答)、「収入を増やしたいから」「1つの仕事だけでは収入が少なく、生活自体ができないから」の回答割合が高く、それぞれ54.5%、38.2%となっている。次いで「自分が活躍できる場を広げたいから」(18.7%)、「時間のゆとりがあるから」(15.8%)、「様々な分野の人とつながりができるから」(13.2%)などの順。

本業の就業形態別でも、いずれの就業形態も「収入を増やしたいから」「1つの仕事だけでは収入が少なく、生活自体ができないから」の割合が高い傾向は変わらず、特に「非正社員」で「1つの仕事だけでは収入が少なく、生活自体ができないから」と回答した割合が43.9%と高いが目立つ(図表2-11)。

図表 2-11 副業する理由(複数回答、本業の就業形態別、単位:%)

本業の就業形態	n	収入を増やしたいから	少ないから、生活自体ができない	1つの仕事だけでは収入が	た自分が活躍できる場を広げ	自分のゆとりがあるから	様々な分野の人とつながり	えているため借金や負債を抱	定年後に備えるため	向上させるための活用・	仕事に必要な能力を	副業のほうに本心に好きな	か仕事を頼まれ、断りきれな	独立したいから	ど(大学教員、研究者など)	本業の仕事の性格上、別	から営業、事務、研究など	働くことが1つできる時間	転職したいから	その他
計	11,358	54.5	38.2	18.7	15.8	13.2	11.3	11.3	11.0	9.7	7.9	4.8	4.4	4.1	3.2	3.1				
正社員	4,327	59.1	31.6	20.2	13.7	14.9	14.9	15.6	12.8	10.7	7.3	7.0	4.6	1.9	4.7	3.1				
非正社員	4,657	53.2	43.9	15.4	17.2	10.5	9.5	9.1	7.7	10.0	7.1	3.1	2.0	6.1	2.7	2.7				
非雇用者	2,374	48.7	38.9	22.7	17.1	15.5	8.2	7.5	14.2	7.6	10.5	4.0	8.8	4.1	1.4	3.8				

副業する理由（複数回答）を本業および主な副業の就業形態別にみると、「1つの仕事だけでは収入が少なく、生活自体ができないから」は「本業・非雇用者+副業・非正社員」や「本業・非正社員+副業・非正社員」で割合が高い（それぞれ52.3%、47.4%）。「自分が活躍できる場を広げたいから」は副業が非雇用者で割合が高い。「副業のほうが本当に好きな仕事だから」は「本業・非正社員+副業・非雇用者」（22.3%）で割合が高い（図表2-12）。

世帯上の地位別にみると、「世帯主（扶養親族あり）」は「ローンなど借金や負債を抱えているため」「定年後に備えるため」の回答割合が相対的に高い。「世帯主（扶養親族なし）」は「1つの仕事だけでは収入が少なく、生活自体ができないから」の回答割合が相対的に高い（図表2-13）。

図表 2-12 副業する理由（複数回答、本業および主な副業の就業形態別、単位：%）

本業および主な副業の就業形態	n	収入を増やしたいから	少ないから、1つの仕事だけでは収入が足りないから	自分が活躍できる場を広げたいから	時間のゆとりがあるから	様々な分野の人とつながりができるから	ローンなど借金や負債を抱えているため	定年後に備えるため	向上させるため	仕事で必要な能力を活用・	副業のほうが好き	仕事で必要だから	仕事を頼まれ、断りきれなかったから	独立したいから	どら（大学教員、研究者など）	本業の仕事を格上、別から	から	活を営めるよつな収入を得	約があり、1つの仕事で生	働くことができ時間	転職したいから	その他
計	11,358	54.5	38.2	18.7	15.8	13.2	11.3	11.3	11.0	9.7	7.9	4.8	4.4	4.1	3.2	3.1						
本業・非正社員+副業・非正社員	3,732	54.5	47.4	13.5	17.5	10.3	10.4	8.9	7.4	6.9	7.2	2.0	1.8	6.2	2.6	2.0						
本業・非雇用者+副業・非正社員	874	50.0	52.3	16.5	17.0	13.3	10.3	7.6	9.7	3.3	9.2	1.7	5.3	4.0	1.1	2.7						
本業・正社員+副業・非正社員	2,217	62.5	39.4	15.8	15.3	14.0	19.5	13.5	11.1	6.9	6.6	3.4	3.5	1.8	3.7	1.8						
本業・非正社員+副業・非雇用者	909	48.0	30.1	23.2	16.0	11.3	6.3	9.9	8.6	22.3	6.8	7.6	2.6	5.3	3.0	5.4						
本業・非雇用者+副業・非雇用者	1,467	48.1	31.5	26.7	17.3	17.1	6.8	7.4	16.9	10.2	11.2	5.3	10.7	4.2	1.6	4.5						
本業・正社員+副業・非雇用者	1,388	56.1	17.7	27.4	12.1	16.8	7.4	18.7	16.1	17.7	9.1	11.5	5.4	1.4	4.5	5.8						
本業・非正社員+副業・正社員	16	43.8	12.5	12.5	18.8	6.3	0.0	6.3	12.5	18.8	12.5	0.0	0.0	12.5	6.3	12.5						
本業・非雇用者+副業・正社員	33	42.4	15.2	12.1	6.1	6.1	12.1	12.1	9.1	9.1	15.2	9.1	15.2	3.0	0.0	3.0						
本業・正社員+副業・正社員	722	54.6	34.6	19.5	12.0	14.1	15.0	16.5	12.2	8.4	6.0	9.6	6.2	3.5	7.9	2.1						

図表 2-13 副業する理由（複数回答、世帯上の地位別、単位：%）

世帯上の地位	n	収入を増やしたいから	少ないから、1つの仕事だけでは収入が足りないから	自分が活躍できる場を広げたいから	時間のゆとりがあるから	様々な分野の人とつながりができるから	ローンなど借金や負債を抱えているため	定年後に備えるため	向上させるため	仕事で必要な能力を活用・	仕事で必要だから	副業のほうが好き	仕事を頼まれ、断りきれなかったから	独立したいから	どら（大学教員、研究者など）	本業の仕事を格上、別から	から	活を営めるよつな収入を得	約があり、1つの仕事で生	働くことができ時間	転職したいから	その他	
計	11,358	54.5	38.2	18.7	15.8	13.2	11.3	11.3	11.0	9.7	7.9	4.8	4.4	4.1	3.2	3.1							
世帯主（扶養親族あり）	3,563	53.9	36.1	19.4	12.3	14.3	14.1	13.4	11.7	9.5	8.9	5.3	5.7	2.6	3.5	3.4							
世帯主（扶養親族なし）	3,668	54.2	44.5	18.3	17.1	13.2	11.4	11.4	11.6	9.1	7.0	4.9	4.1	3.6	3.0	3.0							
世帯主以外	4,127	55.3	34.4	18.5	17.7	12.2	8.7	9.3	9.8	10.5	7.8	4.3	3.5	5.8	3.1	2.9							

世帯上の地位が世帯主の人 (n=7,231) について、本業の月収別にみると、「1つの仕事だけでは収入が少なく、生活自体ができないから」は本業の月収が20万円未満では約6割と回答割合が高い。他方、本業の月収が高い人ほど回答割合がおおむね高い傾向にあるのは「自分が活躍できる場を広げたいから」「様々な分野の人とつながりができるから」「仕事に必要な能力を活用・向上させるため」「本業の仕事の性格上、別の仕事をもつことが自然だから(大学教員、研究者など)」などで、副業の動機には経済的状況による違いが見てとれる。「時間のゆとりがあるから」は、本業の月収が10万円以上では月収による差異があまりみられない(図表2-14)。

図表2-14 副業する理由(複数回答、本業の月収別、世帯主、単位:%)

本業の月収	n	収入を増やしたいから	少ないから	1つの仕事だけでは収入が	たいていから	自分が活躍できる場を広げ	時間のゆとりがあるから	様々な分野の人とつながり	ローンなど借金や負債を抱	定年後に備えるため	向上させるため	仕事で必要な能力を活用・	副業だから	副業のほう	仕事に頼まれ、断りきれな	独立したいから	どら(大学教員、研究者な	本業の仕事の性格上、別	本業の仕事の性格上、別	転職したいから	かられる仕事に就けなかつた	約あり、1つ以上の仕事で	働くことができない時間	その他
計	7,231	54.1	40.4	18.9	14.8	13.8	12.7	12.4	11.7	9.3	7.9	5.1	4.9	3.2	3.1	3.2								
5万円未満	206	49.0	58.3	17.0	23.3	9.7	10.7	4.4	6.8	7.8	6.8	4.4	5.8	4.9	6.3	2.4								
5万円以上 10万円未満	388	45.4	59.5	11.1	19.1	8.5	5.9	4.1	5.2	6.2	9.0	1.5	2.1	1.0	6.2	4.1								
10万円以上 20万円未満	1,678	48.9	60.7	14.7	14.4	9.8	12.2	8.8	7.7	9.2	5.7	3.6	2.2	3.7	5.1	2.7								
20万円以上 30万円未満	1,782	57.6	48.1	15.2	14.5	13.0	16.9	13.3	10.2	10.4	5.6	5.4	2.7	3.3	3.1	1.9								
30万円以上 40万円未満	1,307	61.7	31.1	19.7	13.6	12.9	14.4	14.0	10.9	9.6	7.8	5.0	4.5	2.8	2.0	3.8								
40万円以上 50万円未満	624	58.8	21.5	20.2	12.2	17.3	14.6	17.9	14.9	9.6	10.3	5.8	6.3	3.2	0.6	5.4								
50万円以上 60万円未満	490	52.9	17.1	28.2	14.3	20.2	8.8	15.1	17.6	9.0	9.4	8.4	9.2	5.5	1.0	2.4								
60万円以上 70万円未満	250	48.4	7.6	30.0	14.8	21.2	5.6	13.6	20.0	9.2	12.4	9.6	12.4	2.4	0.8	5.2								
70万円以上	506	46.0	9.5	34.2	16.6	23.5	6.7	16.6	24.7	7.5	17.2	5.9	14.2	2.2	1.8	4.2								

副業する理由で、もっともあてはまるものについても尋ねた。その結果をみても(図表2-15)、やはり「収入を増やしたいから」「1つの仕事だけでは収入が少なく、生活自体ができないから」の回答割合が高い(それぞれ33.7%、26.2%)。一方で、「自分が活躍できる場を広げたいから」「時間のゆとりがあるから」「様々な分野の人とつながりができるから」は、複数回答(8ページの図表2-11)と比べると半分以下の割合に減少している。これらの結果からは、副業をするもっとも強い動機は金銭的なもので、そのうえで自己実現や時間、それに人とのつながりも重要視されている様子が見えてくる。

図表 2-15 副業する理由でもっともあてはまるもの(本業の就業形態別、単位:%)

本業の就業形態	n	収入を増やしたいから	少ないから	1つだけ生活だけで収入が	たから活躍できる場を広げ	自分のゆとりがあるから	時間のゆとりがあるから	副業のほうに本業に好きな	仕事だけから	仕事を頼まれ、断りきれない	えているため借金や負債を抱	ローンなど借金を活用	向上させるため	仕事に必要な能力を活用	がでるから	様々な分野の人とつながり	定年後に備えるため	から	活を営むに就けな収入を得	約が、1つの仕事で生	働くことのできる時間に制	ど(大学教員、研究者な	本業の事務が格上、別	本業の事務が格上、別	独立したいから	転職したいから	その他
計	11,358	33.7	26.2	6.2	4.8	4.3	4.2	3.9	2.9	2.8	2.6	1.8	1.7	1.5	0.7	2.7											
正社員	4,327	38.8	20.2	6.5	3.4	4.1	3.4	5.5	3.2	3.0	3.4	0.9	2.0	2.3	0.8	2.7											
非正社員	4,657	32.0	31.3	5.1	5.4	5.1	4.4	3.2	1.9	2.3	2.4	2.4	0.7	0.8	0.8	2.2											
非雇用者	2,374	27.8	27.1	7.8	6.3	3.4	5.2	2.3	4.4	3.6	1.7	2.1	3.3	1.3	0.2	3.5											

8. 本業の勤め先での副業の禁止・通知の状況

副業を行っている人のうち、本業の就業形態が雇用者の人 (n=8,984) に対し、本業の勤め先で副業が禁止されているかを尋ねたところ、11.0%が「禁止されている」と回答し、「禁止されていない」が 73.6%、「わからない」が 15.4%となった(本業のみの者についての結果は 14 ページの図表 3-1 を参照)。

本業の就業形態別にみると、「禁止されている」は正社員が 18.3%に対して、非正社員は 4.3%となっている(図表 2-16)。

図表 2-16 本業の勤め先で副業が禁止されているか(副業者、本業の就業形態別、単位:%)

本業の就業形態	n	禁止されている	禁止されていない	わからない
計	8,984	11.0	73.6	15.4
正社員	4,327	18.3	64.0	17.8
非正社員	4,657	4.3	82.5	13.2

本業の勤め先に、副業していることを知らせているかどうかをみると、「知らせている」が 38.7%で、「知らせていない」が 37.5%、「正式な届け出などはしていないが、上司や同僚は知っている」が 23.8%となっている。

本業の就業形態別にみると、「知らせていない」は正社員 (43.5%) の方が非正社員 (31.9%) よりも高い割合となっている(図表 2-17)。

さらに、本業の勤め先での副業の禁止状況別にみると、「禁止されている」とした人の 72.5%が「知らせていない」としている。また、「禁止されていない」とした人では約半数の 48.8%が「知らせている」と回答しており、「正式な届け出などはしていないが、上司や同僚は知っている」(26.6%)を加えると、7割以上が本業の勤め先に副業を知らせている。なお、勤め先が副業を禁止しているかどうか「わからない」とする人の 74.4%は知らせておらず、その割合は「禁止されている」とした人 (72.5%) とあまり差がない(図表 2-18)。

図表 2-17 副業していることの本業の勤め先への通知(本業の就業形態別、単位:%)

本業の就業形態	n	知らせている	て上は正 い司し式 るやてな 同い届 僚なけ はい出 はがな っ、ど	知らせていない
計	8,984	38.7	23.8	37.5
正社員	4,327	33.5	23.0	43.5
非正社員	4,657	43.6	24.5	31.9

図表 2-18 副業していることの本業の勤め先への通知(本業の勤め先での副業の禁止状況別、単位:%)

本業の勤め先での副業の禁止状況	n	知らせている	て上は正 い司し式 るやてな 同い届 僚なけ はい出 はがな っ、ど	知らせていない
禁止されている	990	12.9	14.5	72.5
禁止されていない	6,609	48.8	26.6	24.5
わからない	1,385	9.0	16.6	74.4

9. 副業していることを本業の勤め先に知らせない理由

副業していることを本業の勤め先に「知らせていない」とする人 (n=3,369) に対して、その理由を尋ねた(複数回答)。「個人的なことで言いたくないから」(37.8%)の割合がもっとも高く、以下「あてはまるものはない」(25.6%)、「伝えるのが面倒だから」(24.8%)、「伝えることで、自身が不利益を被らないか心配だから」(20.8%)、「副業の内容が、本業の勤め先の就業規則に反すると思うから」(17.6%)などの順となっている。

本業の就業形態別にみると、正社員の方が非正社員よりも10ポイント以上高いのは、「副業の内容が、本業の勤め先の就業規則に反すると思うから」と「伝えることで、自身が不利益を被らないか心配だから」となっている(図表 2-19)。

図表 2-19 副業していることを本業の勤め先に「知らせていない」理由(複数回答、本業の就業形態別、単位:%)

本業の就業形態	n	個人的なことで言いたくない	伝えるのが面倒だから	益を被ること、心配だから	伝えられたり、反すると思	先業の就業規則に反すると思	本業の勤め先に心配をかけ	ある能力が支障がある	本業の業務が支障がある	時間的余裕がない	副業の内容が本業の就業規則に反する	労働時間が増える	業務の負担が増える	秘密が漏れる	競争が激化する	あてはまるものはない
計	3,369	37.8	24.8	20.8	17.6	7.2	6.6	4.6	3.3	25.6						
正社員	1,882	37.9	26.0	26.0	25.0	8.2	8.2	5.3	3.9	17.5						
非正社員	1,487	37.6	23.1	14.2	8.2	5.9	4.5	3.8	2.6	35.8						

10. 新型コロナウイルス感染症の流行の影響

副業している理由には、新型コロナの流行が影響しているかを尋ねたところ、「影響している」が34.7%、「影響していない」が65.3%だった。本業の就業形態別にみると、「影響している」は非雇用者（41.5%）で高くなっている（図表 2-20）。

本業の業種別にみると、「影響している」とした人は「宿泊業、飲食サービス業」（45.0%）がもっとも高く、以下「生活関連サービス業、娯楽業」（40.8%）、「建設業」（39.3%）、「製造業」（39.2%）、「運輸業、郵便業」（38.0%）、「その他のサービス業」（37.1%）などの順となっている（図表 2-21）。

図表 2-20 副業している理由には、新型コロナの流行が影響しているか（本業の就業形態別、単位：%）

本業の就業形態	n	影響している	影響していない
計	11,358	34.7	65.3
正社員	4,327	35.0	65.0
非正社員	4,657	30.9	69.1
非雇用者	2,374	41.5	58.5

図表 2-21 副業している理由には、新型コロナの流行が影響しているか（本業の業種別、単位：%）

本業の業種	n	影響している	影響していない
計	11,358	34.7	65.3
農林漁業・鉱業	144	29.2	70.8
建設業	491	39.3	60.7
製造業	1,330	39.2	60.8
電気・ガス・熱供給・水道業	129	28.7	71.3
情報通信業	540	35.0	65.0
運輸業、郵便業	684	38.0	62.0
卸売業・小売業	1,321	34.9	65.1
金融業・保険業	277	31.4	68.6
不動産業、物品賃貸業	303	28.1	71.9
学術研究、専門・技術サービス業	653	32.0	68.0
宿泊業、飲食サービス業	742	45.0	55.0
生活関連サービス業、娯楽業	754	40.8	59.2
教育・学習支援業	1,008	27.3	72.7
医療・福祉	1,584	27.9	72.1
複合サービス事業	189	33.3	66.7
その他のサービス業	852	37.1	62.9
その他	357	31.9	68.1

《3》本業のみの者の状況

1. 本業の勤め先での副業の禁止の状況

副業を行っていない人に対して、勤め先では副業が禁止されているかを尋ねたところ、「禁止されている」が38.4%、「禁止されていない」が32.6%、「わからない」が28.9%だった（図表3-1）。副業者では「禁止されている」が11.0%に留まっている（11ページの図表2-16を参照）ことと比べると、副業に対する勤め先の姿勢の違いがあらわれている。

本業の就業形態別にみると、「禁止されている」とする回答割合は正社員（50.5%）の方が非正社員（13.1%）よりも高かった。「禁止されていない」「わからない」とする回答割合は非正社員の方が正社員よりも高かった。副業をしている正社員では「禁止されている」が18.3%に留まっている（11ページの図表2-16を参照）ことと比べると、正社員に限定してみても、やはり副業に対する勤め先の姿勢の違いがあらわれている。

図表3-1 本業の勤め先で副業は禁止されているか（本業のみの者、本業の就業形態別、単位：%）

本業の就業形態	n	禁止されている	禁止されていない	わからない
計	2,032	38.4	32.6	28.9
正社員	1,377	50.5	24.0	25.6
非正社員	655	13.1	50.8	36.0

注：本業が雇用者である人を対象に集計。

2. 副業の希望

副業を行っていない人に対して、今後副業をしたいと思うかを尋ねたところ、「副業したいと思う」は33.2%にとどまり、「副業したいとは思わない」(46.2%)を下回った。「わからない」は20.6%となっている。

本業の就業形態別にみると、「副業したいと思う」は正社員（36.3%）がもっとも高く、非雇用者（22.7%）がもっとも低い（図表3-2）。

図表3-2 副業をしたいと思うか（本業の就業形態別、単位：%）

本業の就業形態	n	副業したいと思う	副業したいとは思わない	わからない
計	2,182	33.2	46.2	20.6
正社員	1,377	36.3	45.8	17.9
非正社員	655	29.0	44.6	26.4
非雇用者	150	22.7	57.3	20.0

今後副業をしたいと思うかどうかを、勤め先での副業の禁止状況別にみると、「副業したいと思う」は勤め先で副業が「禁止されている」人で37.0%、「禁止されていない」人で38.8%と、ほとんど差がみられなかった（図表3-3）。

図表3-3 副業をしたいと思うか（勤め先での副業の禁止状況別、単位：%）

勤め先での 副業の禁止状況	n	思 副 業 し た い と	は 副 業 し た い と	わ か ら な い
計	2,032	34.0	45.4	20.6
禁止されている	781	37.0	47.9	15.1
禁止されていない	663	38.8	46.2	15.1
わからない	588	24.5	41.3	34.2

注：本業が雇用者である人を対象に集計。

3. 副業を希望する理由

「副業したいと思う」と回答した人（n=724）に対し、その理由を尋ねると（複数回答）、「収入を増やしたいから」（70.2%）が約7割で特に高い。「1つの仕事だけでは収入が少なく、生活が苦しいから」が42.3%で続き、そのほか「定年後に備えるため」（20.7%）、「自分が活躍できる場を広げたいから」（15.1%）、「時間のゆとりがあるから」（11.5%）などの順となっている。

本業の就業形態別にみると、「収入を増やしたいから」がいずれの就業形態でも約7割でもっとも高い。「非雇用者」は、他の就業形態と比べて「1つの仕事だけでは収入が少なく、生活が苦しいから」「自分が活躍できる場を広げたいから」「時間のゆとりがあるから」「様々な分野の人とつながりができるから」「仕事に必要な能力を活用・向上させるため」の割合が高いことが目立っている。（図表3-4）。

図表3-4 副業を希望する理由（複数回答、本業の就業形態別、単位：%）

本業の 就業形態	n	収入を増やしたいから	1つ少ない仕事、生活が苦しいから	定年後に備えるため	自分が活躍できる場を広げたいから	時間のゆとりがあるから	様々な分野の人とつながりができるから	ローンなど借金や負債を抱えているため	仕事で必要な能力を向上させるため	転職したいから	独立したいから	その他
計	724	70.2	42.3	20.7	15.1	11.5	9.3	8.7	8.7	8.6	6.6	0.4
正社員	500	69.0	40.4	20.2	14.2	10.4	8.8	9.0	9.4	8.8	7.8	0.6
非正社員	190	73.7	44.7	21.6	16.3	13.2	8.9	7.4	5.8	7.9	3.2	0.0
非雇用者	34	67.6	55.9	23.5	20.6	17.6	17.6	11.8	14.7	8.8	8.8	0.0

4. 副業を希望しない理由

「副業したいとは思わない」と回答した人 (n=1,009) に対し、その理由を尋ねると (複数回答)、
「1つの仕事だけで十分な収入があり、生活が苦しくないから」が25.2%でもっとも高く、以下「本業が忙しくて時間にゆとりがないから」(20.6%)、「仕事をしていない (プライベートの) 時間が大切だから」(19.5%)、「特に理由はない」(19.0%)、「面倒だから」(16.7%)、「長時間労働によって健康を損なわないか心配だから」(16.5%) などと続いている。

本業の就業形態別にみると、「非正社員」は他の就業形態と比べて「仕事をしていない (プライベートの) 時間が大切だから」「長時間労働によって健康を損なわないか心配だから」「収入を増やしたいとは思わないから」「介護・育児など家庭責任で忙しくて時間にゆとりがないから」などの割合が高くなっている (図表 3-5)。

図表 3-5 副業を希望しない理由 (複数回答、本業の就業形態別、単位:%)

本業の 就業形態	n	収入が あつた 生活で 十分な 収入	1つの 仕事で 生活が 苦しく ない	本業が 忙しく ない	本業 以外の 仕事 の時間 が大切 だから	面倒 だから	長時間 労働に よって 健康を 損なわ ないか 心配だ から	収入を 増や したい と思わ ない	本業 で十分 に活躍 でき ない	忙しく ない 時間 にゆ とりが ない	介護・ 育児 など 家庭 責任 がな い	満足 して いる から	本業 での 人 とな り	向上 でき る から	本業 で必 要な 能力 は本 業 で	その他	特に 理由 はな い
計	1,009	25.2	20.6	19.5	16.7	16.5	9.7	7.2	5.9	4.4	3.0	1.1	19.0				
正社員	631	28.4	23.0	17.4	16.0	15.8	7.8	7.9	3.6	4.4	3.2	1.3	19.7				
非正社員	292	18.2	18.2	24.7	17.5	20.2	13.4	6.2	12.0	4.8	1.7	0.7	14.7				
非雇用者	86	25.6	11.6	17.4	18.6	8.1	11.6	5.8	2.3	2.3	5.8	1.2	29.1				

Ⅲ 属性

性別	副業者		本業のみの者	
	n	%	n	%
男性	5,914	52.1	1,114	51.1
女性	5,444	47.9	1,068	48.9

年齢	副業者		本業のみの者	
	n	%	n	%
18～29 才	672	5.9	371	17.0
30～39 才	1,844	16.2	583	26.7
40～49 才	3,419	30.1	508	23.3
50～59 才	3,911	34.4	548	25.1
60 才以上	1,512	13.3	172	7.9

世帯上の地位	副業者		本業のみの者	
	n	%	n	%
世帯主(扶養親族あり)	3,563	31.4	498	22.8
世帯主(扶養親族なし)	3,668	32.3	704	32.3
世帯主以外	4,127	36.3	980	44.9

本業の月収	副業者		本業のみの者	
	n	%	n	%
5 万円未満	580	5.1	60	2.7
5 万円以上 10 万円未満	1,444	12.7	200	9.2
10 万円以上 20 万円未満	3,024	26.6	521	23.9
20 万円以上 30 万円未満	2,635	23.2	636	29.1
30 万円以上 40 万円未満	1,586	14.0	411	18.8
40 万円以上 50 万円未満	713	6.3	173	7.9
50 万円以上 60 万円未満	540	4.8	97	4.4
60 万円以上 70 万円未満	268	2.4	33	1.5
70 万円以上	568	5.0	51	2.3